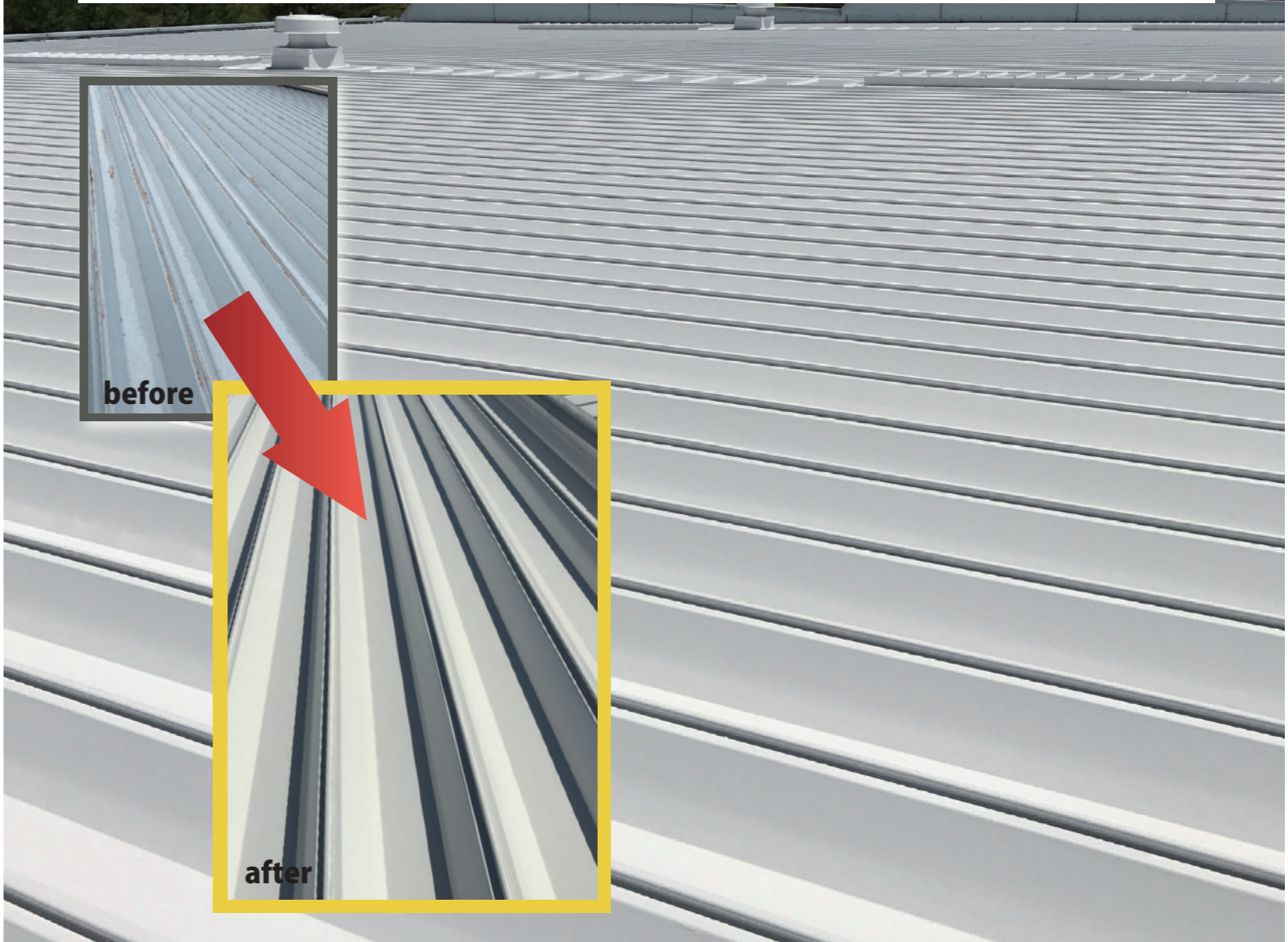


高日射反射率塗料

サーモファクトリー ダブルワン(工場用)

2液弱溶剤形シリコンさび止め兼用



before

after

工期短縮 ガルバリウム鋼板に直接塗れる！

※色調は「サーモファクトリーダブルワン」見本帳にてご確認ください。

遮熱グレード別カラーバリエーション

遮熱グレード(全波長反射率)



遮熱グレードは高いほど太陽からの光を多く反射することを示します。遮熱グレードの低い色調も、下地の屋根が濃い色の場合は、キクスイSPサーモプライマーを下塗りに入れることで、10%程度までの遮熱性能の向上が見込めます。

- SF-1 サーモパールグレー (80.3%, 72.5%)
- SF-4 サーモホワイト (82.1%, 85.6%)
- SF-7 サーモライトベージュ (74.0%, 73.6%)
- SF-10 サーモライトレッド (76.1%, 76.4%)
- SF-16 サーモライトターコイズ (75.1%, 73.6%)
- SF-2 サーモアッシュグレー (64.7%, 52.1%)
- SF-5 サーモベージュ (66.9%, 53.0%)
- SF-11 サーモレッドベージュ (67.2%, 54.2%)
- SF-13 サーモライトグリーン (73.7%, 63.1%)
- SF-14 サーモスモークグリーン (66.6%, 53.3%)
- SF-15 サーモターコイズ (73.5%, 55.6%)
- SF-17 サーモスモークターコイズ (65.7%, 52.2%)
- SF-19 サーモライトブルー (77.4%, 66.6%)
- SF-20 サーモスモークブルー (75.1%, 59.8%)
- SF-3 サーモグレー (59.9%, 43.3%)
- SF-12 サーモスモークレッド (65.1%, 47.7%)
- SF-8 サーモスモークブラウン (64.1%, 49.6%)
- SF-9 サーモレッドブラウン (61.8%, 45.0%)
- SF-6 サーモブラウン (54.6%, 35.8%)
- SF-18 サーモディープターコイズ (55.3%, 37.0%)
- SF-21 サーモディープブルー (51.1%, 31.2%)

●印は濃い色のため、材料費が割高になります。

製品一覧

製品名	一般名称	色
サーモファクトリーダブルワン	2液弱溶剤形金属屋根用シリコン樹脂高日射反射率塗料 (遮熱塗料)	21色

標準施工仕様書

工程	材料・調合	塗装器具	塗回数	間隔時間 (h)	所要量
素地調整	膨れ・剥がれ・浮きがある劣化塗膜は、周囲を含め入念にケレン工具で除去する。さびは電動工具やサンドペーパー、研磨紙等で除去し乾燥し清浄な面とする。素地露出部は、変性エポキシ樹脂塗料を用いてタッチアップを行う。				
※1 (下塗り)	キクスイ SPサーモプライマー 主材：16kg 塗料用シンナー A：0～1.6L	はけ ウールローラー	1～2	4～168	107～123 m ² /16kg 0.13～0.15kg/ m ²
上塗り	サーモファクトリーダブルワン 主材：13.6kg 硬化剤：2.4kg 塗料用シンナー A：0～2.1L	はけ、ウールローラー エアレススプレー	2	工程内 7時間以上	50～66 m ² /16kg 0.24～0.32kg/ m ²

- ※1. 新築など、金属素地に直接塗装する場合のみ必要
 注1. 施工用具・条件は代表的なものです。
 2. 間隔時間・所要量の値は標準的なものです。施工方法・器具、被塗物の形状、素地の状態、施工条件により各々多少の幅を生じることがあります。
 3. 可使用時間は23℃で5時間になります。

適応下地

工場等の金属屋根・鉄部

・適応旧塗膜 合成樹脂調合ペイント、フタル酸樹脂系塗料、エポキシ樹脂系塗料、ポリウレタン樹脂系塗料、塩化ゴム系塗料、ポリエステル樹脂系塗料、メラミンアルキド樹脂塗料など

・適応基材 鉄、亜鉛メッキ鋼板、ステンレス、アルミニウム

※旧塗膜の改修用材料です。新築など、金属素地に直接塗装する場合、別途キクスイSPサーモプライマーが必要になります。

荷姿

サーモファクトリーダブルワン 主材 NET：13.6kg/ 缶
硬化剤 NET：2.4kg/ 缶

キクスイ SPサーモプライマー 主材 NET：16kg/ 缶
4kg/ 缶

注意事項 (屋根用塗料)

- 【施工上の注意事項】**
- 下地がスレート屋根、セメント瓦の場合は、下地の乾燥を十分に行ない施工してください。
 - 旧塗膜の劣化が著しい場合や吸込みの著しい場合は、劣化塗膜を除去した後、「キクスイSPペストシーラー」または「キクスイSPサーモシーラー」を光沢が出るまで塗り重ね、下地の強度を確保してください。下塗材乾燥後、ガムテープ(布テープ)で、下地との付着性の確認を行ってください。下地が剥がれる場合は、再度下塗材を塗り付けて下さい。
 - 無機塗料、特殊下地の塗装及び特殊塗装の場合は、最寄りの弊社営業所にご相談ください。
 - 大きな動きが予想されるシーリング部などの部位への塗装は、塗膜がひび割れる可能性がありますので、なるべく重く塗ってください。
 - 下地調整や劣化が不十分だと塗膜剥離の原因となります。また、光沢が出ないなどの仕上がりに不良になる場合があります。塗り替えては必ず高圧水洗がブラなどによる洗浄を行い、付着物や劣化塗膜を除去してください。
 - 高圧水洗は、基本別にはトルネードタイプのノズルを使用してください。ただし、下地を破損しないよう下地までの距離や水圧には注意してください。
 - 剥離したこみが桶に詰まらないよう如置を行ってください。
 - 水洗い後は夏季2日以上、冬季3日以上乾燥させてください。また、カラーベスト、コロニアル表面が雨、霧などで湿潤状態の場合は、十分に乾燥させてください。
 - 鋼板下地で、錆が発生している場合は、ワイヤーブラシなどで完全に除去してください。
 - 塗膜の乾燥過程で水分の影響を受けた場合(高温湿、結露、降雨等)塗膜表面が白化する場合があります。施工場所の気温が5℃以下、湿度85%以上又は結露の発生が考えられるなど、水分の影響を受ける可能性がある場合は、施工を行わないでください。また、低温又は高湿度時は、乾燥が遅くなりますので施工を行わないでください。
 - 外壁の施工で降雨、降雪のおそれ、または強風のおそれがある場合は施工を行わないでください。
 - 必ず結露が発生するよう塗膜は、屋根への塗装はしないでください。
 - 塗膜面が50℃以上の場合は、仕上がり、物置に不具合が発生することがありますので、施工を避けてください。
 - 直射日光下で施工する場合は、適切な養生を、下地表面の急激な温度上昇を防止してください。
 - 施工後、翌日までに降雨の心配がある場合は、施工を避けてください。(塗装後3～5時間ぐらひは、絶対に雨に合わないようしてください。)
 - 山間部や夜露の早く降りる地域では早く塗装を終えて、十分な乾燥時間を確保してください。
 - 施工時は換気を十分に行ってください。
 - 施工時は飛散防止として養生は十分に行ってください。
 - 施工面とその周辺(車や付帯設備を含む)や床などに汚染や損傷を与えないように注意し、必要に応じて、あらかじめ施工面周辺に適切な養生を行ってください。
 - 乾燥途中で降雨等が予想される場合は、シート養生を行うなどで、塗膜表面に水分が当たらないようにしてください。塗料は、ミキサーで均一に混ぜ合わせて使用してください。溶剤形塗料の場合は防凍型ミキサーを使用してください。
 - 開缶後は、早めに使用してください。
 - 二液反応硬化剤の材料は、主剤と硬化剤を指定の比率で混合し、防凍型ミキサーで混ぜ合わせて使用してください。特に混合時に使用する場合、計量器を用いて計量を行ってください。混ぜ合わせた後の材料は、可硬時間内に使い切ってください。また、可使用時間は温度、希釈量などの条件により変わりますので、注意してください。
 - 材料の希釈量は所定の量により、所定の所要量を守り事前の試験塗りなどで決定してください。希釈の過多、不足は劣化や腐食、不足、仕上がりムラの原因となります。
 - 各種標準施工仕様に記載の所要量及び間隔時間を守って施工し、適正な塗付量を確保してください。
 - 色、模様決定に当たっては事前に見本帳を確認してください。
 - 被塗物の形状、膜厚、塗回数、希釈量などの違いにより実際のつやと異なって見える場合があります。また、刷毛・ローラー塗装時の塗布量不足も起こる場合があります。特につや調整品は、被塗物の形状、素地の状態、膜厚、色相、塗重ね乾燥時間等により、実際の色と若干違ってくる場合がありますので、試し塗りの上、本施工してください。
 - 既存塗膜の剥離箇所は、既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。
 - ローラー塗りの場合は、ローラー目とは同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がりが異なる場合があります。
 - 下地が波形鋼板の場合、山の部分や、鋼板の継ぎ目、折り曲げ部分は、膜が薄くなりがちです。あらかじめ拾い塗りを行ってください。
 - 傷などで補修塗料が必要な場合がありますので、補修用に使用塗料の控えを取っておき、同一塗料、同ロット、同一方法で補修してください。
 - 使用後は刷毛やローラーなどは十分に洗浄してください。
 - 他の材料と混合して使用しないでください。
 - 塗装後、水切部でカラーベスト、コロニアルの重なり部分に塗料がつまり漏水の原因となります。塗料がつかまっている箇所は、皮すき、ケレン棒、カッターなどを用いてたつた塗料を除去し確実に縁切りを行ってください。
 - 溶剤系の製品を取り扱う場合には、特に火気に注意し、消防法及び労働安全衛生法等を厳守してください。
 - 溶剤形塗料の場合、希釈用シンナーは弊社推奨品をご使用ください。その他のシンナーを使用した場合、ちぢみ、再溶解、乾燥不良等の不具合が発生する恐れがあります。
 - 反応硬化形溶剤形塗料には、水、アルコール系溶剤の混入は絶対避けてください。
 - 揮発性(形)溶剤形塗料は、開缶後は空気中の水分と反応しますので速やかに使用してください。また、シンナーにより密栓を行ってください。
 - つや調整品は、はけ、ローラーでの塗装はムラが出やすくなります。スプレー塗装をお勧めします。
 - 刷毛塗りとローラー塗り、スプレー塗りが混在する場合、施工方法の違いで若干の色相差が生じます。希釈量を調整するなどして塗装してください。
 - 調整品は、塗料が分離しやすいので、良く混ぜ合わせながらご使用ください。
 - 濃い色や原色に近い色相では塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類などに触れる可能性がある部位への施工を行わないでください。施工する場合は、クリアーによる保護塗装を行ってください。
 - 上塗りに黄色、赤色、青色、緑色の濃い色を塗装する場合、隠れ性の不足する場合がありますのであらかじめ中塗りとして共色を塗装してください。
 - 希釈した材料を後日使用すると、色相が変わる場合があります。希釈した材料は、その日のうちに使い切るようにしてください。
 - 防露、防カビ効果は、繁殖を抑制するものです。施工部位の形状、構造、環境条件によっては、防露、防カビ効果が十分に発揮されない場合があります。また、すでにカビ、藻が繁殖している場合は、下地処理として除去及び殺菌処理を行ってください。
 - 施工部位により、橋脚壁の下端部、水切りが無い部位、窓周りで水切りが不十分な場合、雨掛りの少ない部位などは低汚染性が十分に発揮されない場合があります。
 - 各シーリング材は可塑剤を含まないノンブリードシーリング材を使用してください。また、シーリング材の上へ直接塗布する場合、シーリング材の種類や材質によって塗膜が付着しない場合があります。詳しくは最寄りの営業所にご相談ください。
 - 改修工事の場合、下地を傷し既存塗膜に膨れ・縮み(リフティング)などの異常が発生することがあります。事前に試し塗りを確認してください。特に、2液反応硬化形弱溶剤系塗料での改修において、既存下地が塗料用シンナーで容易に溶解する場合、縮みや剥がれが発生する恐れがあるため、塗装は避けてください。
 - 塗替え直後は、滑雪性が良くなる場合があります。積雪時にまとまった雪が落ちる可能性がありますので、注意してください。
 - 硬化剤は、湿度で硬化しますので密栓をして貯蔵してください。
 - 製品を取り扱いに付いての一般的な注意事項の詳細はSDS(安全データシート:旧MSDS)を参照してください。
 - 取扱い後は手洗い、うがいを十分に行なってください。
 - 窓ガラスの保護、保護眼鏡、防護マスクなどを着用してください。
 - 火花を発生しない工具を使用してください。
 - 屋外または換気の良い場所でのごみ出し、火気厳禁してください。
 - 必要な時間以外は、環境への放出を避けてください。
 - 製品の混ぜ合わせは、防凍型ミキサーにて行ってください。また、必ずアースを取ってください。
 - 火災時には、炭酸ガス、泡または粉末消火器を使用してください。
 - 目に入った時は直ぐに水で洗い、速やかに医師の診断を受けてください。
 - 誤って飲み込んだ場合は速やかに医師の診断を受けてください。
 - エポキシ樹脂系の材料は、皮膚にふれを引き起こす恐れがあります。皮膚に付着しないよう特に注意してください。
 - 皮膚についた場合は、多量の水と石鹸で洗ってください。皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断を受けてください。
 - 粉じん、揮発物等を吸い込んで気分が悪くなった場合は、安静にし、必要に応じて医師の診断を受けてください。
 - 使用後保管する際は無希釈の状態ですっきり密栓して40℃以上の場所では保管しないでください。できる限り早く使用してください。
 - 日光から遮断し、換気の良い場所で保管してください。
 - 保管場所、取り扱った場所とその周辺には、塗装中、乾燥中、熱、火花、高温体のような発火源を遠ざけ火気厳禁としてください。取扱い、法令に沿った保管を行い、特に乾燥中は蒸発の面積が広くなるため、短期間に可燃性の高い蒸気が発生します。注意してください。
 - 合成樹脂などの電気絶縁性の床で材料の保管や取り扱いをしないでください。また、導電靴や帯電防止の服を着用してください。
 - 子供の手の届かない所に保管してください。
 - 塗料や塗料の付いた布などを処分する際は、法令に従い産業廃棄物として処理してください。
 - 塗料、塗装器具を洗浄した汚水、塗料の付いた布などはそのまま地面や排水溝に流すと環境に悪影響を及ぼすおそれがありますので、関連法規を厳守の上、産業廃棄物として処理してください。



サーモファクトリーダブルワン(工場用) 2液弱溶剤形シリコンさび止め兼用

サーモファクトリーダブルワンはさび止め機能を併せもつ、**さび止め下塗り上塗り兼用タイプ**です。下塗りが不要なので、**工期短縮**できます。※下地の状況により必要な場合もございます。

遮熱性能 暑い日の省エネに。

従来技術
今まではシーラーを白色にして赤外線を反射

新技術
シーラーレスでも特殊無機顔料を使用しているため塗料自体が赤外線を反射

従来の遮熱塗料は白い下塗りを使用する事で太陽からの赤外線を反射していました。サーモファクトリーダブルワンは、遮熱用の特殊無機顔料を使用しているため、下塗り無しでも優れた遮熱性能を発揮します。

温度測定試験

<既存面>

9:00 (気温 20°C)

47.8°C

⇒

-14.3°C

<施工面>

33.5°C

試験日時: 5月22日
場所: 広島
天気: 晴れ

12:00 (気温 22°C)

65.8°C

⇒

-19.2°C

46.6°C

工期短縮 急ぎの施工時の救世主!

通常 3 工程

- 上塗り 2 回目
- 上塗り 1 回目
- さび止め下塗り

→

サーモファクトリー 2 工程

- 上塗り 2 回目
- 上塗り 1 回目

既存塗膜

鋼板下地

さび止め機能を併せ持つため、下塗りが不要で工期が約 1 日分短縮できます。材料・道具・産業廃棄物も通常施工より減るので余分な手間を省けます。**さび止め兼用で下塗り工程が省ける!**

推奨ローラー

フラットな金属折版屋根では、ハイパイルローラー（糸系）よりも隠ぺいが良く均一に塗ることが可能なウーブンローラー（糸系）が適しています。

無泡ローラー
大塚刷毛製造 (株)

TSUBASA
大塚刷毛製造 (株)

マックスローラー
大塚刷毛製造 (株)

ATSUKO
好川産業 (株)

Q. 遮熱塗料って何?

太陽の光のうち、熱エネルギーになりやすいのは波長が 780 nm ~ 2500nm の近赤外線領域です。遮熱塗料には近赤外線の波長を反射しやすい特殊な顔料が使用されています。近赤外線の波長を反射しやすくすることで、屋根の蓄熱を防ぎ、室内に熱が伝わるのを抑えます。

一般塗料

遮熱塗料

熱エネルギーになる太陽光を反射させて、室内温度の上昇を防ぎます。

Q. キクスイの遮熱塗料の特長は?

●特殊な黒

濃色が多い屋根に欠かせないのが黒色顔料。熱を吸収しやすい黒色を、変色が起こりやすい3色の顔料混合で作らず、特殊なチタン系黒色遮熱顔料を使用することで、濃色対応と優れた遮熱性能を兼ね備えています。

有機顔料 3 原色の混合で黒色を作る

変色リスクあり

チタン系黒色遮熱顔料 (無機顔料)

変色リスク大幅低減

①防食試験

さび止め下塗りを使用しなくても、JIS K 5600-7-9 サイクル腐食試験サイクルD 60サイクルでも発錆なし。(JIS K 5674は36サイクルで合格)

サイクル腐食試験	鋼板 (SPCC)		亜鉛メッキ (SGCC)	
	1回塗り	2回塗り	1回塗り	2回塗り
20サイクル JIS K 5621相当	○	○	○	○
36サイクル JIS K 5674相当	○	○	○	○
60サイクル	○	○	○	○

さび止め不要で JIS K 5674 規格合格の防さび性能

②耐候性試験

照射時間 2500 時間後の光沢保持率が 80% 以上。

③基材適合試験

5 種類の基材にサーモファクトリーを塗布し、密着試験を行いました。

基材	程度	剥離位置	評価結果
フッ素鋼板	5/5	基材界面	塗装不可
カラー鋼板	0/5	なし	○ (塗装可能)
ガルバ鋼板	0/5	なし	○ (塗装可能)
SPCC鋼板	0/5	なし	○ (塗装可能)
SPCC鋼板 (発錆)	2/5	なし	○ (塗装可能)
SPCC鋼板 (発錆) + ベーパーケレン	2/5	基材界面	△ (僅かに剥離)

※フッ素鋼板には直接施工不可です。
※発錆部分や素地露出部分は付着不良となるためさび止め下塗材 (キクスイ SPサーモプライマー) が必要になります。

施工手順

下地 (劣化状態)

3 種ケレン

下地処理 (発錆部)

タッチアップ

完成

キクスイ SPサーモプライマーをご使用ください。

注意

メッキ鋼板
下塗り不要

さび止め下塗り必要

多く錆が発生している場合や素地が露出している場合には適切な下塗り (キクスイ SPサーモプライマー) が必要となります。

発錆部、素地露出部は付着不良となるため、さび止め塗料で補修塗を行ってください。また、発錆部への塗装は再び錆が発生しやすいため、適切なケレン等を行ってください。